

みなさんからの情報ボード

◆やまなし環境教育ミーティング 2019

今年で3年目となる、このミーティングでは、毎年、推進員の皆さんをはじめ、県内の「環境」「教育」「地域」「福祉」「観光」などに携わる、地域に根ざした活動家が集まります。魅力的なお互いの活動を知り、つながり、今後へのアイデアや新しい企画を行えるパートナーと出会える場になっています。是非、ご参加ください！

・日時／3月16日(土)10:00～16:00 (時間は予定)

・会場／山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター (北杜市清里) ★参加費無料

★ゲスト 【教育】丸茂哲雄(北杜市須玉小学校) 【暮らし】山口宗一郎(WorldCafeGuestHouse)

【仕事】大西信正(ヘルシー美里・野鳥公園)

●お問合せ・お申込 山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター

〒407-0311 山梨県北杜市大泉町西井出石堂 8240-1 (清泉寮むかい)

TEL:0551-48-2900 FAX:0551-48-2990 メール:eventee@keep.or.jp 担当:佐藤

◆地球温暖化対策セミナー「私たちのもとから考える地球温暖化」

【基調講演①②】

①「気象と地球温暖化」～地球温暖化の仕組みと共に気象への影響を解説

北野芳仁さん(甲府地方気象台)

②「SDGsと環境市民活動」～サステナビリティの概念、SDGsの概要と動向についての解説

箕浦一哉さん(山梨県立大学国際政策学部教授)

◎パネルディスカッション 甲府市での温暖化防止「草の根」活動紹介

・日時／2019年3月2日(土)13:30～16:00 受付13:00～

・会場／山梨県立大学・飯田キャンパス講堂(甲府市飯田5-11-1)

・定員／150名 参加費無料 締切／2月28日(木)

●お問合せ・お申込 甲府市地球温暖化対策地域協議会事務局

TEL:055-241-4312 FAX:055-241-6190 メール:kankyohozen@city.kofu.lg.jp

◆ぶどうを利用した緑のカーテンセミナー

山梨県では、夏場の冷房時に排出される二酸化炭素を抑制し節電対策の取り組みとして、ゴーヤや朝顔などのつる性植物を使い、窓辺や壁面に緑のカーテン運動を推進しています。県の特産品のぶどうを緑のカーテンとして利用して「ブドウのある暮らし」を身近に感じ、山梨らしい文化として根付かせていくため「ぶどう」を利用したセミナーを開催します。

・日時／平成31年3月11日(月) ①午前の部 10:00～12:00 ②午後の部 13:30～15:30 どちらか

・会場／東山梨合同庁舎1F 101会議室 (甲州市塩山上塩後1239-1)

・定員／各回30人 ★先着順、ただし初めての方を優先 ★締切 2月22日(金)必着

●お問合せ・お申込 山梨県エネルギー局エネルギー政策課 〒400-8501 山梨県甲府市丸の内1-6-1

TEL:055-223-1506 FAX:055-223-1505 メール:energy-seisaku@pref.yamanashi.lg.jp

◆発行 ; 山梨県地球温暖化防止推進活動センター 〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里3545 やまねミュージアム内
TEL:0551-48-8011 FAX:0551-48-3577 mail:eco@keep.or.jp

◆「地域・暮らしからはじまるSDGs」研修会 レポート



2019年1月25日(金)に山梨県立図書館にて、SDGsをテーマにした研修会が行われた。講師は、藤本亜子さん(環境パートナーシップ会議)と黒田健二さん(パルシステム山梨)の2名。参加者は35名が集まり、推進員や行政担当者をはじめ、環境や教育に関する方、寺院や大学に携わる方など、一般申込が7割を占め、SDGsの注目度の高さを感ぜさせた。

まずはじめに、藤本さんよりSDGsの全体像の説明がありSDGs=Sustainable Development Goalsとは、国連が採択した『我々の世界を変革する、持続可能な開発のための2030年までの計画』であること。複雑に絡み合う世界的な課題を開発するために、具体的なターゲットが17設定されていると紹介された。以下のアイコンを参照。しかし、最も大切なことは前文に書かれているということで、そこに注目しながらキーワードを抜粋すると



◆この計画は、人間・地球・繁栄のための行動計画であり、普遍的な平和の強化を追求

◆あらゆる側面の貧困を撲滅するのが最大課題

◆すべての関わる団体や人は協同的パートナーシップの下に計画を実行

◆世界を持続的で強靱な道筋に移行させるため変革的手段をとり、誰一人取り残さないことを決意する

『SDGsは世界の決意である』という、藤本さんの言葉が熱く参加者の心に届いていた。そして『貧困を終わらせることに成功する最初の世代になりえる』『地球を救うチャンスを持つ、最後の世代かもしれない』という言葉は続く。最後に、SDGsの活用法としては ①自治体、企業、NPOの共通言語として利用 ②私が取り組む活動が、他の社会や世界と繋がっている実感 ③活動のパートナーを増やす機会に(環境×福祉×災害×人口など)

次に、優れたSDGsに贈られる第1回「ジャパンSDGsアワード」を受賞したパルシステムの黒田さんより取り組みを紹介して頂く。グループ理念は『心豊かなくらしと共生の社会をつくる』とあり、3つの柱は①食と産直 ②環境 ③地域支援とし、まさにSDGsである。特に地域支援では、現在、山梨を代表するNPOの数々の立ち上げを支援された。エシカル消費=『使う人、作る人、売る人、社会、環境、未来、消費の後ろにある沢山のモノへ思いを馳せて何を選ぶのか、倫理的な消費』の説明もあった。暮らしを通して社会を変える、消費者に世界や日本の課題について考えるきっかけを与えたい、という思いも語られた。また、「消費者」と「生産者」という考え方がおかしい、皆が「生活者」である、何かを生み出しているし、誰かの作ったものに支えられている。皆がつながりの中で生きている。だからこそ、自分が何をを選んで買って食べてという中に、暮らしを作り出す一員として社会に関心を持って行動を起こして欲しい、という熱いメッセージでくられた。



最後に、参加者&講師が混じってのべちやくちやタイムで出された気づきや、ご意見を幾つかご紹介する。「SDGsは新しい概念かと思ったが自らの活動と近いものを感じた」「誰一人残さないという言葉は、寺の教えと同じ、寺でも広めていきたい」「参加者はみんな熱心な活動家、一人ずつをつなぐ人がいればもっと大きな力になる」「山梨はマイバツクの浸透も早かった、今は紙製ストローも開発され、民間+行政による環境行動が迅速で嬉しい」

◆COOLCHOICE インタビュー「誰かのことを思って手作りを」 鈴木一江さん

人口減少や高齢化が進む地方の地域活性を目的に総務省が始めた制度「地域おこし協力隊」。今回は南アルプス市芦安地区で活動する、鈴木一江さんにお話を伺いました。

Q、地域おこし協力隊になったきっかけや、具体的な活動を教えてください

元々、山梨県出身でしたが県外で仕事をしていて山梨に戻りたいと思い仕事を探していたときに、この制度を知りました。特に、南アルプス市内では「農業」をテーマにした協力隊は既にいらっやあって、私が探していた時には新たに「芦安地区地域活性化全般」募集があり、これはいろんな挑戦ができるのでは！と可能性を感じて来ました。今は一年半が経ちましたが、活動としては①観光動線作り②地域文化の継承③獣害被害の少ない農作物栽培④特色ある教育環境づくり等を行っています。



Q、とても多様な内容ですね。芦安はどんな地域でしょうか？その魅力は？

昔から南アルプス登山の玄関口だったこともあり、人の往来が多い場所で、外から入ってくる人を受け入れてくれる雰囲気を感じます。300人位の集落ですが、「地域の方と楽しいことをしたい！」と思って活動をしています。年末年始は、神社へ初詣に来る人におもてなしをしたり、「芦安大好きおみくじ」を作ってひいてもらったりしました。また、地域のNPOが行っている小中学校への自然体験の時間の1ネタを担当させてもらったり、協力隊の「生き方」をお話するキャリア教育のような授業もさせてもらいました。その中で、私が芦安で見たほ乳類モンガについて熱く語ったところ、子どもたちも共感してくれて自分の集落には豊かな自然があり動物が棲んでいることに気づき、集落の魅力の再発見してくれたようでした。芦安は、地形が急峻ですが、子どもたちはよく歩きます。昔は山の仕事が多かったので大人も足が強く、そして心の芯が強い印象です。辛いことを知っている分、人に優しいです。

Q、地元の方とのコラボレーションもいろいろ生まれていそうですね！

地元の方で地域を元気にする活動をされている方がたくさんいて、そういう方に導かれ出会いが広がっています。子育てサークルでワークショップをさせていただいたり、公民館事業と一緒に企画したりと人と人が重なることで、新たな可能性が出てくることに魅力を感じています。また、地元の女将さんに伝統保存食「しょうゆの実」の作り方を教えていただいたり、100歳のおばあちゃんに白菜漬けを教わったりして地域文化にも触れています。

Q、300人位の住民の皆さんは、高齢化が進んでいますか？

実は、団地が建て替えられて、そこに子育て世代が結構入っています。小中学校は、自然教育や英語教育に力を入れていて少人数制が取られているので学区外から通ってくる子どもも多いです。また、未就学児も十数人いるのですが、集落の中に幼稚園や保育園がないのは残念だと感じています。もしあれば地域をお散歩して、お爺ちゃんお婆ちゃんと触れ合えると思うのですが、子育て親子が異世代との交流がとりにくいと感じているようで、もったいないと思います。

Q、鈴木さんの任期は残り1年ちょっと、その後の人生についてはどのようにお考えですか？

私は保育士でもあって、こちらの仕事にも魅力を感じているので、保育の仕事しながら農的な産業を作りたいです。芦安は、獣害被害があるので柵の中で農作物を育てています。そこで、柵の外でも作れる「藍」「コンニャク」「綿」を今は育てています。その藍を地元の染物店へ提供したり、コンニャクと市内の果物で新たなお土産ができないかも模索中です。近所の方に本当によくしてもらっているので、誰かのことを心配したり、誰かのことを想って何かを手作りしたり、そんな風にして一住民としてココに暮らし続けることができたらいいなと思っています。

芦安地区の中をゆっくり歩きたくなりました！注目していきます。ありがとうございました！

◆COOLCHOICE インタビュー「山梨県には何でもある～人づくりが持続可能な未来をつくる」 根津和博さん

今回のゲストは、地球温暖化防止推進員としての活動はもちろん、エコハウス山梨で持続可能な地域社会作り、SDGsに取り組む、山梨市議会議員の根津和博さんです。現在の活動と、そこにつながる根っこの思いを伺いました。

Q.今日、おじゃましている「エコハウス山梨」とはどんな施設ですか？

エコハウス山梨は環境省エコハウスモデル事業として、地域の特性を十分に活かした家づくりを目指し、全国に20箇所選定されました。エコハウス山梨は山梨市駅近くの住宅街に建ち、山梨市ならではの日照時間が長い特性を生かし、太陽の光や熱や風の流れといった自然の恵みを多く取り入れた設計が施されています。また、伝統的な越屋根の良さを再認識し、なるべく電気を使わない室内温度調整の実践天然素材の壁など、環境への認識と理解を深める展示も行っております。そのエコハウス山梨では、家族のつながりや健康にも配慮した様々な教室、小豆カイロ作り、三徳袋作り、手作りお灸で身体メンテナンス(左から3番目写真)、R水素勉強会などが開催されています。



Q.根津さんは、どのようなきっかけで、今の多様な活動を始められたのでしょうか？

2000年頃、地域の神社やお寺に通ううちに、自然と人がつくり出した神社仏閣の世界にのめり込んでいったという根津さん。神社仏閣を通して地域の自然について疑問をもち、それを調べることで、その土地だからこそ受け継がれているものに気がつき、自然と地域に目が向いたとのこと。その後、山梨県内の林業体験や自給自足を目指す市民グループ「山賊・さんぞく」の活動(写真右)に参加されるようになり、そこで出会った東京からの参加者が口々に「山梨は良い！」とおっしゃる様子を目の当たりに。都会のまちづくりでは人工的に自然を作りますが、田舎には本来の自然があります。山梨には自然・都市・何でもあるということに気が付き、山梨の良を見つめ直したということでした。その後、間伐合コン『エコ婚』や、半自給的な農業とやりたい仕事を両立させる生き方『半農半X』、農業の担い手を増やすため、野良着をファッションブルに着こなす『ミスもんペグランプリ』(左から2番目・写真)を開催。山梨市を「大好きなまち」にする会も結成され、現在は、山梨市議会議員、フットパスガイド、森林セラピーガイドなど、さまざまな場で活躍されておられます。

Q.ご自身の活動への思いを聞かせてください

根津さんは、日本の人口が減っていくなか、SDGs(持続可能な開発目標)を達成するには、目先の利益を考えたまちづくりをするのではなく、何世代にも持続可能な社会を築いていくことが必要と考えておられます。国家100年の計という言葉がある様に、長期的な視点で人づくりをすることこそが、地球を守っていくことに繋がります。また、全国一律の計画で都市開発をするのではなく、その土地ならではの資源を活かしたまちづくりを進めることを大切にしたいと考えています。

Q.今後の活動について、力を入れていきたいことはどんなことですか

持続可能な社会を実現する為に、未来への希望を持った人が、よりよい状態で次世代へバトンを渡していくことを大切にしたいという思いがあります。地域や環境のことに興味がない人たちにも、地域のよさや活動に興味を持って欲しい。その為にも、きっかけづくりを自らがやり続けること、廃れてはならない地域の知恵や技術を、次の世代へ伝承していく活動をしていきたいと思っています。ユニークでメッセージ性の強い活動に目が離せません！これからもご活躍を！